



もみじ

第10号

【ホームページ】<http://akihaku-dai1.city-niigata.ed.jp>



～真っ赤に色づいた桜の木～



読み聞かせのすすめ

毎週、文庫室で絵本の貸し出しを行っています。絵本カードにはたくさんの絵本の題名がつづられ、ご家庭でも絵本の読み聞かせを楽しんでいらっしゃると思います。

幼稚園でも、読み聞かせの時間を大切にしています。絵本は「心の栄養」と言われます。新潟市が実施している「ブックスタート」も、赤ちゃんと保護者がゆっくりと触れ合うひと時をもつきっかけづくりとして取り組まれています。お子さんの誕生をきっかけに、絵本に触れる機会が増えたのではないのでしょうか。

幼い時に、絵本の世界が「おもしろくて」「楽しくて」「胸がワクワクするものなんだ！」という体験をたっぷりと味わってもらいたいと願っています。ちょっとした時間、夜眠りにつく前のひと時に、大人が絵本の扉を開け、扉の向こうの世界はこんなに素晴らしいものだよと毎日読んであげてほしいのです。それには、まず大人が自分でも本当に絵本を楽しみ、そして子どもにその世界を語ってやる労を惜しまないことが大切です。どうぞ、文庫室から借りてくる絵本をじっくりと味わってみてください。必ず「あれっ?」「不思議だな。」「すごい!」「これはどうなっているの。」等々、様々な感情がかき立てられ、あるいは未知なる体験をし、最後には「ああよかった。」と安堵感や満足感をもって絵本を閉じ、いい気分になれるのではないのでしょうか。

こうして、扉の向こう側の面白さを味わった子どもは、いつしかその扉を開ける方法を自分で獲得していく力が育っていくと思います。

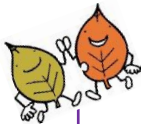
幼児期に絵本の世界の楽しさを体験した子どもは、文字に興味をもって字が読めるようになったとか、好きなものをとことん調べるようになったとか、読書の習慣がついたとか、副産物はたくさんあることでしょう。でも、それ以上に大切なことは、その絵本のおもしろさと読んでもらった時の情景を、一緒に読んでくれた人の声や言葉の調子を一生の宝物として、耳の奥底にしっかりと焼き付かせて成長していくことです。おうちの人との間にうまれた感情の交流や、同じ世界を体験できた喜びを味わうことなのです。そこから、真実なもの、美しいもの等々を見極める感情が養われていくのではないのでしょうか。

この力が、成長しようとする子どものエネルギーとなり心の支えとなってくれるものと信じてやみません。

今日の絵本は、何にしますか……。



貸し出しの様子(年中すみれ組)



1年生との交流活動(11/7)

年長もみじ組の子どもたちは、にいつ愛児こども園と Akiha もりの幼稚園の年長さんと一緒に、一小の1年生と交流してきました。一つ目は音楽室で♪かもつ列車♪の歌を歌いながらじゃんけんゲームをする「音楽」。二つ目は教室で段ボール片とモールで製作する「図工」。三つ目は体育館でいろいろな動物の格好で歩いてみる「体育」を体験しました。1年生の先生のお話を聞いて行動しようとするもみじ組の子どもたちは真剣そのものでした。そして、1年生が1歳違いの年長さんの手を引いたり、親切に声をかけてくれたりしている立派な姿に感心しきりでした。



マジックショーと三幼年中組さんとの交流(11/26)

当園の学校運営協議会委員でいられる笹川様は st. DREAPY 代表としてマジックショーも手掛けておられます。今回はマジックにシャボン玉、科学実験等々ワクワクのひと時を過ごしました。そして、今回は新津第三幼稚園の年中もみ組さんが遊びにきてくれました。すみれ組の保育室では、みんなの前で名前と好きな食べ物を言ったり♪じゃんけん列車♪でみんなでつながったりして遊びました。また交流できるといいですね。



カインジュースを作りました。今回はホットカインジュースで舌つづみ！



もみの木に飾り付けをして、クリスマスツリーの完成！



「虫歯にならないためには？」について、みんなで考えました。



園庭で焼き芋をしました。焼き芋のおいしかったこと♡



小学生との交流。いちご組さんの目線に合わせてくれる4年生、ありがとう！



防災教室で、火事や地震についての話を聞きました。



年長児が育てた稲の脱穀中。7〜と吹くと籾殻だけがとんでいきます。



年中組さんが植えた「そら豆」が発芽中。冬を越せるかな？